

おお大勝利

平成 30 年度山東サッカー一部報第 12 号 (9 月 22 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

地区総体、Y2A11 節～13 節と立て続けに公式戦ありましたが、業務多忙及び今野の怠慢により、報告遅れておりました。待っていて下さった方々、すみません。試合結果が芳しくないから振り返りたくない・・・という訳ではない訳でないのですが・・・と煙に巻いておきましょう。ご覧ください。

地区新人 無念2年連続県新人出場できず

8 月 26 日、夏休み明け、県リーグで夏の成果を試せると意気込んでの臨んだ山形中央 C 戦が、荒天による延期となり、夏休み明け初戦として迎えたのが、9 月 8 日 (土) の地区新人初戦。場所は、地区大会の聖地山形市スポセン (落合)。ただし、敬意を表して聖地と記したものの、大量の降雨の後としては水はけが超悪いピッチであり (以前はそんなことなかったが改修後悪くなった)、野球の試合があるため駐車場が一杯で、不便さばかり感じる山形市スポセン。そろそろ落合も卒業ではないかと地区の先生方と話になる。そんな愚痴はさておいて、地区新人初戦は上山明新館戦。試合が始まると、ぬかるんだピッチにサッカーにならない。といっても、サッカーの勝負が成立しないとは言いつもりがない。**ピッチが悪いときほど、日ごろの鍛錬が問われるというか、スキルの差がはっきり出る**。これ、明らかなこと。だって、足元が悪いほど、小手先のドリブル技術ではなく、ボールを相手から遠い所に置き続けるというサッカーの基本技術が問われてくるし (ということは、より「体を入れて」ボールを保持するスクリーンの技術が問われてくるし)、ボールが走らず (自分から遠ざからず) より足元にあってもロングキックのできるスキルが問われてくる訳で、**日ごろキックをごまかしている選手ほど足元が悪い時うまくプレーできない**。だから、コンディションが悪いのを言い訳にする気にはならない。逆に、コンディションが悪いと、すぐピロティ (という体育館下の場所) の練習に切り替える選手諸君に対する意識改革にもってこい、という気持ちになる。

さて、初戦明新館戦。試合が始まると、全く圧倒的な試合運びができない。**2 年 FW オサ**が疑惑のファールをもらい (**マネージャーアヤ**は「上手くファールを取られ PK」) をもらったスコアブックにと表記)、それを決め、山東先制。しかし、その後、前がかった後のリスキマネジメントが出来ず、カウンターから、飛び出した **2 年 GK イグラ**の裏をかかれミドルシュートを放たれてしまい、無人のゴールに点々と転がり、失点。前半を 1-1。

後半は一転して山東が攻める一方的な展開に。前日練習にて、顧問今野からヘディングの未熟さ (進歩のなさ) を酷評され、修正して臨んだ **1 年ホルモンことコヤ**が、**1 年左 SB コウダイ**の積極的なドリブルからのセンターリングのボールを、何と！ ヘディングシュー

ト。決して上手とは言えないヘディングでしたが、(上半身ガチガチに固まりつつも)頭に当たったボールはゴールマウスに吸い込まれ、山東勝ち越し。このシュート、試合後コヤのいない席で「いや～、ホルモンよく決めたな～」という顧問の発言に対して、**対面で(応援側で)ウエマツ、ジュン、カマーチョことシカマ、モニギリことモリヤとともに一生懸命応援し続けた腰痛のハキームことハク**が、一言。「あれは、昨日俺がヘディングを教えた成果出ましたね」。私は憤り言いました。「ハク、お前はいつから(山東サッカー部の先輩同様)**手柄横取りキャラ**になったんだ?」。それに対してハク「イヤ、先生本当ですから」と畳みかけるものだから、聞きました。「この一点、コヤは何点分だ?」。すると、ハク。「あのセンターリング上げたコウダイが0.8点分です」。「んじゃ、残り0.2点は?」「それは、俺(ハクのもの)ですね」。・・・**今まで、いろいろな手柄横取り事件見てきましたが、得点者に少しの功績も認めなかったのは、これが初めて**。ハク、厳しいね～。まあいいや。その後、ウエノ、オサが続いて得点し、4-1で次戦へ。

次戦の相手は山形南。最近、なかなか練習試合で勝てない相手。好敵手と言ったら、山南さんに失礼な星。山南コーチの鼻息の荒さに、いつも蹴散らされてる。しかし、ひっそりと、地区新人勝ちたい。そんな思いで臨んだ試合。**この試合勝てば、翌日を待たずに県新人進出が決まる**。この試合、ピッチ状況も悪く、お互い安全運転の試合運び(いわゆる蹴り合い)ではあるが、ところどころにスキルの差が表れる。山南、アイディア、技術、球際のいずれも山東よりも上。結局後半にハンドによるPKを与え、それを決められ、0-1で敗戦。

県新人の切符は、9月9日(日)持ち越し。さて、9月9日またもや**コウダイ**のセンターリングを今度は**2年グラウンドマネージャーのノブ**がスライディングシュートで押し込んだ点を守りきり、まずは初戦なんとか山形学院戦に勝利。県新人出場決定戦(第5代表決定戦¹⁾)を2年連続で山形城北と争う。

その城北戦、やや山東押し気味に進めるも一進一退。**前半、またしてもペナルティエリア内でファールを犯してしまい、相手にPKを与える**。それを決められ、0-1。後半、山東が攻勢に出て、右からのFKを得る。ノブの蹴ったボールをファーサイドで待ち構えた**1年SHヒラマサ**はとんでもない方向にヘディング!しかし、さすが**キャプテン、2年ニコラスことシオン**がそのボールをうまく相手ゴールマウスに収め、1-1。今年の山東、何だかんだで、面白い展開に持ち込んでくれる。しかし、その後、1-1でPK合戦となり、**1年GKカザマはヒーローになりきれず**。PK合戦負け。**2年連続で県新人の切符を逃す**。2年前から村山地区の県新人の枠が実質的に減らされたため、県新人の切符入手が厳しくなった²・・・とはいえ、**村山の6枠には入れないチームが、県チャンピオン目指せるわけがない! 山東、精進が必要です(監督含め)**。

¹ 山形中央が、プリンスリーグ東北と日程が重なっているため地区新人不出場ながら、村山1位の枠が決まっており、残る5枠をかけて争いました。よって、最終戦は第5代表決定戦ですが、村山地区からは6チーム参加することになります。

² 以前は、県総体のベスト4に入った地区に、その数だけ優先的に県新人の出場権が与えられたのですが、その制度がなくなったため、完全に登録チーム数と選手数で計算されるようになりました。

Y2A 2敗後に価値ある1分け

地区新人翌日、9月10日(月)はその前の学校祭の代休日。山形市球技場で順延になっていた山形中央C戦を実施。地区新人では、県新人を逃したものの粘り強い戦いはできている、一定の成長を感じることができた。「**スキルの差をスコアの差にしない粘り強いサッカー**」が山東の伝統の一つと考え、そのように選手に伝えてきた私としては、山東の伝統を踏まえた戦いをしてくれて、うれしかった。しかし、地区新人は、泥だらけの中の試合だったため、「ただ蹴りこみさえすればいい」サッカーしか求められなかった。はたして、人工芝という良好なピッチコンディションでどのようなサッカーが展開できるのか。いささか不安を覚えながら、会場に赴きました。

さて、**この試合、山形中央Cのアイデアとスキルに山東のディフェンスは終始翻弄される**。どこかでガッツリ行かないと、決してボールは奪えない(相手のミス待ちではダメ)。山東内のゲームであれば、ガッツリ行かなくとも勝手にミスってくれるので、消極的なディフェンスのボロが出ませんが、技巧ある相手にはそうは行かない。ただ、山形中央Cは言葉悪いがやはりCであり、うまさはある、将来性はあるが、まだまだゴールを奪いきる迫力に欠ける。山東、それに助けられ、前半両チームスコアレスで折り返す。そう、思い出しました。**1年GKカザマが相手の際どいシュートを超ファインセーフでチームを救いましたね**。もともとシュートストップには良いものがあり、GKコーチ齋藤さんが「俺がこれまで(面倒)みたGKの中で、少なくとも1年の段階では一番うまい」と仰っていました。もちろん先輩方は驚くような進歩を見せ、最終的にはなかなかのGKに育ったわけで、齋藤コーチもカザマが最終的に先輩以上の選手に成長するとまでは楽観していないのだが。キック、ハイボール、ブレイクアウェー(1対1の対応など)は、まだまだまだまだのレベル。

後半、相手チームは「これ勝たないともったいないよ」と声を掛け合う。前半戦って、明らかに格下と感じた模様。「Cチームにそんな風に思われて悲しいが、実際山形中央の選手たちよりも、スキルや判断力のある選手、いないものな～」と残念に思う。しかし、スキルの差がスコアの差になるとは限らないから、ロースコアのスポーツ(ゆえに番狂わせ起こりやすい)のサッカーは面白い。たびたび登場の**1年左SBコーダイ**が、いつものようにフラフラとドリブルで駆け上がりセンターリングを上げたと思ったら、キックミスしてゴール方向に飛ぶ。そして、フワリとゴールマウスに収まり、久しぶりに見ました、**秘儀シュータリング!** 山東先制。あとは山形中央の攻撃を抑えれば勝ちなのですが、簡単にそうなるとは思えない。相手の活きの良いFWに散々仕事をされてしまい、同点シュートを食らう。この同点シュート、対応した**2年CBダイキ**はもうちょっと寄せて欲しかった(ちょっとじゃなく寄せてボールを奪うのが一番なのだが、または、ボールが渡る前にパスカットするのがより良いのだが)。だって、相手のシュートはニアサイドに飛んだわけで、コースを狙った良いシュートだったものの、ダイキがもっと寄せていればGKは「ファーはない(ダイキがコースを切っている)」と感じてニアのシュートに意識を合わせやすかった。**ここ最近、ダイキは確かな対人とフィードにより、最初だけヘディングシュートで目立った1年CBヤグチを抜いて存在感を見せていただけに、対応の甘さが悔やまれる**。「あ～、やっぱり」という同点劇。その後、試合終盤、**またしてもペナルティエリア内でファール**を犯してしまい、

相手に PK を与える。これで 3 試合連続（学院戦を挟んで）。結局この試合、PK が決勝点となり、1-2 の逆転負け。試合内容からすれば順当の結果ではありましたが、そこを何とかするのが山東の伝統（の一つ）のはず。

そして、9 月 15 日（土）新庄東戦。新東はシーズン序盤、故障者が相次ぎ戦力が整わなかったものの、戦力が整ってからリーグ戦で勝ちまくっている。Y2A で 1 位独走の山形城北にも唯一土をつけた。厳しい戦いが予想されましたが・・・試合の入りからクリアミスが連発して相手の攻撃が止まない。そうこうしている内に、ビューティフルボレーミドルシュートを放たれ、バーに当たってゴール内に吸い込まれ失点。敵ながら天晴れと言うしかない。失点前は、**オサドリフルから左足のミドルシュートでバーを叩いてもいる**（ゴール外に弾かれた）。「切り替えて行こう」という声が出るも、今度は相手 CK に **GK カザマ** が果敢に飛び出すもボールを触れず、GK の後ろで待ち構えた相手にヘディングされ、失点。**もちろん、前に出たのにボールを弾けなかった GK も未熟だったが、簡単にヘディングシュートをさせる FP、そして GK がゴールから離れて前に出たのに、代わりにゴールマウスに入り守らなかった FP も悪い**。やはり、不味いプレーが重なると失点につながるものです（一つの悪いプレーで失点するケースは稀）。そして**その後、やはり相手に PK を献上してしまい、また決められ、前半 0-3。さすがに 4 試合連続（で PK を与えるの）はやバイ。ファールせず奪いきるディフェンス、そもそも PA 内に進入させないディフェンスが求められる。そして GK、そろそろ一回止めて欲しい**。

後半も 3 失点で、まさに山東、良い所なし。「出来が悪かった」と考え、「明日もあるさ」となかなか切り替えることが難しい凡戦。だって、たまたま出来が悪かったのではなく、**監督がサッカー選手としてしっかり成長させられていない**現実を突きつけられた訳で、今後に不安が残る試合だったので。山形中央 C 戦だって、スコアこそ 1-2 で接戦だが、試合内容はひどかった。今期の春先の、または去年のチームのような、「どんなサッカーをしてくれるか」というワクワク感がまったくない。恐らく選手も、「どうやって相手のゴールを陥れようか」とサッカーを楽しむよりも、いかにして目の前の敵にボールを奪われないかに必死になり、サッカーを楽しむ余裕が持てていないだろう。それらを含め、短期的に解決できる問題ではなく、**スキル・判断力を時間をかけて養うしかない**。

さあ、追い込まれて来た山東。ここまで負けると、**降格の影もちらついて来ました**。9 月 17 日（月）の相手は、山形城北。Y2A を独走しており、今年のチームは観客として観ていても、面白い。山東としては、当然厳しい試合が予想される。**清野総監督（後援会名誉会長）、後藤報道局長**に加え、この試合**山形県サッカー協会副会長でもある岸後援会会長**もお見えになった。「まずい、現在の山東の酷さがバレてしまう」咄嗟にそう思ってしまった。だって Y2A で 3 位の新東に 0-6 で負けたのですから、1 位の城北との試合はどんなものになるか。最初から弱気になっていました。しかし、**選手たちは監督が考えるよりも逞しかったのですね～**。

試合が始まると、予想通り、押し込まれる。危ないシーンをたびたび迎え、ヒヤヒヤ。特に相手 FW をフリーにしてヘディングシュートされたシーンは危なかった。これはポストに当たり、事無きを得る。CK で **GK カザマ** がまたもや勇敢に飛び出し、しかしまたもや触れなかったボール、そして相手にヘディングシュートさせてしまったシーンも危なかった

(新東戦と同様のシーン)。しかし、ゴールマウスにしっかり入った**2年ボランチノブ**がシュートをクリアしゴールを死守。二日経っただけですが、成長が見えました。攻撃でも、**2年FW オサ**と**1年FW ドリームことヒラマサ**をシンプルに使い、ダイレクトなカウンターを入れるという割り切りがあり(狙いがはっきりしており)、新東戦と比べ、迷いが無い。前半何とか城北の攻撃をスコアレスに持ち込む。

後半、前半と同様、城北が手厚く攻め、山東がカウンターに活路を見出す展開。そんな中、今年に入って俄然チャンスに思えてきたFK獲得。昨年までのセットプレーでは、あまり得点入る気がせず、点を獲得せずスローインやコーナーキックばかり獲得している(ということはボールを真ん中に運ばず外に押し出されてばかりいる)FW オサをよく愚痴っていましたが、今年はCK獲得して、「オサグッド〜」と叫ぶ自分がある……。ですが、最近、**得点連発のヤグチの連チャンモードが終わって**から、あまりスカッとしないセットプレーからの得点を見ていない。地区新人ではセットプレーからの得点がちょっとありましたが、豪快なやつではなかった。「そろそろさ〜、ヤグチ頼むよ」と思っていたら、というか、最近キッカーノブの球も悪い。「ノブ、ちゃんとやれよ」などと思いながら静観していると、ノブ、ファーサイドに妖しいボールを入れた。最初「バカ、長いだろ」と思いましたが、**大外から、上背があるのに猫背でもったいないコウダイピテクスが突進**し、逆サイドのネットに突き刺す**超豪快ヘディングシュートを決める！ コウダイすっごーい！！** このシュートは鳥肌モノでした。というか、書いていて本当に思いました。**ここ最近の得点、コウダイが常に絡んでいる(実は失点にも)。**

時計を見ると後半15分。「あと30分か〜、長すぎる」と思ってしまうのは、最近の成り行き上仕方ない。しかし、後半、城北の攻撃が前半よりも空回りしている印象。前半はゴールキックがかなりあったのだが、後半はGKは基本パントキックをしている(ということは城北の裏への配給が雑でGKにボールをキャッチされているということ)。カザマのプレスキックはかなり怪しいので、そういう変化は敏感に感じられた。しかし、さすが城北と言うべきか、さすが山東の守備力のなさと言うべきか、何か呆気なくボール斜めに運ばれ、失点し1-1の同点に。「あ〜、デジャブだ」と監督は思っていました。しかし、**選手はFWも含めその後必死に守りきり、Y2A城北相手に価値ある得点1を獲得！** 新東戦ひどかったのどうなることかと思いましたが、**選手たちは良く頑張りました！！**

先に書いたように、「**スキルの差をスコアの差にしない粘り強いサッカー**」という山東の伝統の一つをしっかり展開できた試合となりました。しかし、フィジカルサッカーではなく、「**技術とアイデアを重視する大人のサッカー**」という伝統も、また山東にはあり、諸先輩も含めそうした伝統を形成してくれていた。昨年のチーム(ハレルの代)はその伝統をも継承してくれて、指導者としてとてもうれしかった。**今のチーム、後者の伝統のかけらもまだ見えない現状。**来シーズンまでにはもっと面白いサッカーをしたい。そんな風にも思いました。

さて、これでリーグ戦は残すところ、あと1節。すなわち、**次節最終節**となります。**自力残留のため、勝ち点3がぜひ求められる。**それが終わると、進学校大会を挟んで、選手権に突入です。進学校大会は今年、福島県の進学校である県立安積高校がゲスト参加して下さる。今からワクワクです。しかし、その前のリーグ戦にしっかり照準合わせないとダメですね。山東はテスト期間に入り、調整難しいですが、全力で頑張ります。応援よろしくお願

いします。

9月24日(月) Y2A 第14節(最終節) 米沢工業戦 16:00~@県第二(人工芝)